

環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門） 審査委員会特別優秀賞 採点表（平成 29 年版）

環境報告書としてすぐれていることに加えて、新しい国際的な枠組みに対し積極的に取り組んでいる報告書や、統合思考や長期ビジョンを打ち出している報告書、バリューチェーン・マネジメントやダイバシティ・ポリシー及び情報の質の担保において特に優れた報告書。

1) マテリアリティ選定プロセス MAX 20 点

① 経営トップが選定に関与していることが明記されている。 MAX 5

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

② ステークホルダーを巻き込み、ダイアログの意見も取り込んでいる。 MAX 5

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

③ マテリアリティ選定プロセスが明記されている。 MAX 5

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

④ マテリアリティ選定と企業戦略の関連の意図が読み取れる。 MAX 5

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

2) バリューチェーンマネジメント MAX 20 点

① 部分的にせよ、CSR デューディリジェンス (D. D.) を実施している。 MAX 7

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

② CSR 調達基準を公開している。 MAX 4

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

③ 部分的にせよグリーン調達についてD.D.を実施している。 MAX 6

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

④ グリーン調達基準を公表している。 MAX 3

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

3) 統合思考 MAX 20

① 2030年の中長期のCSR(ESG)ビジョンを打ち出している。 MAX 10

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

② 財務情報とESG等の非財務情報の統合を図ろうとしている。 MAX 7

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

③ 非財務情報についてもXBRLの活用にトライし始めている。 MAX 3

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

4) ダイバシティ・ポリシー MAX 15

① 中長期のダイバシティ・ポリシーを策定し公表している。 MAX 5

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

② 取締役会のダイバシティ・ポリシーを公表している。 MAX 4

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

③ 女性についてのダイバシティ・ポリシーを公表している。 MAX 3

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

④ ワーク・ライフバランスについて多様な取組がある。 MAX 3

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

5) 情報の質 MAX 10

「3」	CSR 報告書全般について第三者保証がある。
「2」	部分的に CSR 保証がある。
「1」	カーボンについてのみ保証がある。
「0」	信頼性を示す記述なし

6) その他、総合評価 MAX 15

以下の項目について総合的に判断する。

1. GRI G4 について対比表がある。
2. (抜き出せば) 統合報告書の作成は容易である。
3. 日本版ステewardシップコードについての質問の答えとして十分活用できる。
4. 社外取締役がある。
5. その他

※点数の考え方は各項目ごとに上限を設定する加点方式のパターンとし、小項目毎に重みづけを行う。
以上